

目 次

年頭所感

- ・経済産業省 製造産業局長 局長 石毛博行..... 1
- ・日本繊維輸出組合/日本繊維輸入組合 理事長 小藪 博..... 3

繊維情報

- ・2005年11月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品)..... 5
- ・2005年10月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類)..... 11
- ・アジア 中 国 2005年1～10月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は微減..... 14
- 台 湾 2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は減少、輸入は微減..... 19
- タ イ 2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は堅調、輸入は高水準で推移..... 22
- ベトナム 2006年対米繊維規制品目と規制枠..... 25
- ・米 州 米 国 2005年10月の繊維品輸入、中国中心に引き続き大幅に増加..... 26
- 2005年11月の大手小売店販売、引続き堅調..... 28
- ・欧 州 E U 2005年1～9月の繊維品域外貿易・輸出入共に増勢推移..... 30
- トルコ 2006年対中繊維規制品目及び規制数量..... 33

組合関係の会議と催事

- ・(2005年12月)(2006年1月のスケジュール)..... 35

組合業務報告

- ・東京・大阪・名古屋地区で新年賀詞交歓会を開催(輸出入)..... 37
- ・3運賃同盟、繊維品のスペシャル・レートの適用期間を延長(輸出)..... 39
- ・繊維団体新年名刺交換会(大阪)の開催(輸出)..... 40

お知らせ

- ・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出)..... 41
- ・「テキスタイル・インディア 2006」開催案内(インド貿易振興局)..... 42
- ・2月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入)..... 43

年頭所感

経済産業省 製造産業局
局長 石毛 博行

平成18年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、わが国経済が着実に回復を続け、製造業における国内設備投資が増加、「第1回ものづくり日本大賞」の開催による現場の職人の方々の表彰など、様々な分野において、わが国における「ものづくり」の良さが再評価され、最先端の技術から伝統的・文化的な「技」まで幅広く注目された年でありました。

わが国経済を概観してみますと、原油価格高騰の動向が内外経済に与える影響等に留意する必要があるものの、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が見込まれております。この景気回復を支えているのが、わが国製造業でございます。わが国製造業の付加価値額は対GDP比で全産業の約2割を占め、雇用者数も約2割を占めるなど、引き続き重要な地位を占めております。さらに、民間の研究開発投資についても、製造業が約9割を占める等、わが国製造業は日本経済を支える基盤産業であるとともに、経済成長の牽引役として重要な役割を担っております。

一方で、わが国製造業は、グローバル化による国際的な機能分業の進展、環境・資源制約の高まり、急速な少子高齢化の進行等の大きな構造変化に直面しており、中長期的な産業競争力の維持・強化を実現していくために、本年度も以下の諸課題に取り組んでまいります。

第一にイノベーションの創出に向けた基盤整備の促進です。

わが国製造業が中長期的に国際競争力を維持・強化していくためには、イノベーションによる新産業の創出が不可欠な要素です。昨年策定致しました「新産業創造戦略2005」を踏まえ、ロボットやナノテク、バイオ等の研究開発プロジェクトを強力に推進してまいります。

わが国には、高機能部材から新素材、金型等まで幅広い産業が高い技術力を持って集積しており、世界に例のない部材産業の基盤がございます。このような高度部材産業の集積こそが、今後成長が期待される情報家電や燃料電池などの新産業創造分野における競争力の源泉であります。こうした次世代の新産業にとって戦略的に重要な高度部材について、支援を行ってまいります。

また、わが国には世界に誇る高品質なものづくりの技術、デザイナーを鍛える感性豊かで厳しい消費者、購買力の大きな消費市場を有しているという強みがございます。昨年は、ファッション・

ビジネスの国際競争力を高めるための取り組みとして、「東京発 日本ファッションウィーク」が開催されました。

今後とも国際的なブランド戦略による繊維産業の競争力強化に向けた取り組みや、伝統的工芸品産業等、地域経済の核となっている産業に対する適切な支援を通して、世界に向けたわが国のものづくりの発信を目指してまいります。

第二に環境問題に対する取り組みです。

現在、地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの排出量は、増加の傾向にあります。持続可能で常に発展し続ける社会を維持していくためには、環境・資源制約への対応は不可欠です。わが国にはエネルギー効率の面で世界をリードする生産技術・生産プロセスがございます。世界に誇るこれらわが国の強みを活かすとともに、今後も環境適応型の小型航空機の研究開発や、低燃費かつ低排出ガスといった環境負荷の小さな自動車の普及促進等、自然環境と産業活動の両立に努めてまいります。

また、昨年以來アスベストによる健康被害が相次いでおります。被害の実態を踏まえ、今後とも関係省庁間で連携しつつ、アスベスト含有製品の早期代替化の推進等の措置を講じてまいります。

第三にグローバル経済への対応です。

国際的な資本や物資の移動が盛んになり、世界経済が一体化していく中で、製造業における競争も益々激化しております。特に台頭著しい、中国をはじめとしたアジア諸国との間で、いかに最適な国際機能分業体制を築いていくかということは、引き続き重要な課題です。

昨年、経済連携協定につきましては、わが国とマレーシアとの間において締結に至り、タイの間では大筋合意に至りました。現在世界全体で200近くもの経済連携協定が締結される中、わが国企業の海外市場における円滑な事業活動の確保、国際競争力の維持・強化の観点から、今後の交渉にも適切に対応していくことが肝要です。タイとの経済連携協定につきましては今春の締結に向けて調整中であり、ASEANやインドネシア、チリとの経済連携協定につきましても、交渉中でございます。

また、アジア諸国を中心にわが国企業が持てる強みを活かして競争できるような市場を構築するためには、知的財産が保護される法制度の整備、厳格な運用が不可欠です。一昨年経済産業省に設置いたしました政府模倣品・海賊版対策総合窓口を中心に、今後もわが国企業の模倣品被害の調査を行っていくとともに、模倣品・海賊版の拡散を防止するための国際的約束の実現に向けて取り組んでまいります。

最後になりましたが、本年の皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 所 感

日本繊維輸出組合・日本繊維輸入組合

理事長 小藪 博

〔 丸紅株式会社

執行役員 繊維部門長 〕

皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成 18 年の新年を迎えまして、謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、日本政府が発表しました 2005 年 7～9 月期の国内総生産（GDP）2 次速報によりますと、物価変動の影響を除いた実質国内総生産は前期比 0.2% 増で年率換算 1.0% 増となりました。景気実感に近い名目 GDP は 0.2% 減で年率 0.7% 減となり、0.2% 増のプラス成長でありました 1 次速報からマイナス成長となりましたが、これは民間在庫品の減少を受けたもので、引き続き個人消費や民間設備投資は堅調で内需拡大主導の成長が続いていると思われまます。これを受け、日経平均株価も 5 年ぶりに 1 万 5 千円台を回復し、マクロ経済指標は確実に景気回復を示しております。しかし、金融政策では今後これまで続いた量的緩和解除への圧力が高まり、また所得税の定率減税廃止など消費者の負担増に繋がる税制改革が実施されるなど、今後も安定的な経済成長を続けるためには、多くの課題を克服しなければなりません。

一方、繊維マーケットでは、昨年は、環境をテーマに政府が提唱した「クールビズ」、さらに秋口からの「ウォームビズ」は、消費市場に刺激を与え、国内繊維業界にも久々の光明をもたらしました。また、従来の百貨店、量販店中心から、首都圏では FB（ファッションビル）、新業態「エキナカ（駅中）」、地方都市では SC（ショッピングセンター）の出店増など、成熟した消費者による厳しい選別の時代に合わせ業態変動が続いております。

「変化のあるところにチャンスあり」の言葉どおり、消費者ニーズの変化をいち早く捕らえ、それに対応した改革に積極的に取り組んで行くことで、業界全体としてもさらなる市場の成長を期待したいと思います。

このような経済環境の下で、我が国の繊維品貿易は、輸出につきましては 2003 年から昨年前期までは増加基調で推移したものの 7 月以降は減少が続き、2005 年 1～10 月は 67 億ドルで前年同期に比べ 2% の減少となっております。とりわけ、全輸出の 77% を占め、我が国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが 3% 減となり、これが全体の輸出減少の大きな要因となっております。中でも、我が国の繊維品輸出を主導して来ました中国向け輸出が 5 カ月連続の減少となっております。中国向け輸出につきましては、持帰り用素材の現地調達化の

進展に伴うものと伺われます。なお、2005年の年間輸出は前年比2%減の81億ドル程度となると予想されます。

一方、輸入につきましては、我が国の小売段階で消費者の衣料品購買力は依然足踏み状態ではありますが、市場対応力と物流拠点の拡充などから中国を中心に輸入品への依存度は高まり衣類やインテリア用品など二次製品で増加し、2005年1～10月の繊維製品輸入額は229億ドルで前年同期に比べ5%の増加となっております。これを1～12月の年間に置き換えますとおよそ276億ドル、円ベースでは2兆9,600億円(前年比4.5%増)となります。

このように、繊維品貿易は組合員各社のご努力により輸出入とも堅調に推移しております。このような中、輸出組合においては、日本の繊維産業が持つ高機能・高付加価値商品の輸出拡大のため、インド、ロシア、ブラジルにミッションを派遣し、輸出先拡大の可能性を調査しております。また、同組合も参画している日本繊維輸出機構では、昨年10月開催の「インターテキスタイル上海展」に、今回で3回目となる日本の出展企業で構成された「ジャパン・パビリオン」を出展し、ジャパン・クオリティーと銘打った「高機能・高付加価値の日本素材」と「中国の縫製力」とのマッチングによる輸出拡大のため積極的に協力してまいりました。また、輸入組合と共同によるJFW(東京発、日本ファッションウイーク)への協賛もいたしました。私ども繊維貿易に携わるものは、輸出と輸入の拡大均衡を目指し、伝統ある繊維産業を活性化するため一層努力する必要があると考えます。

一方、輸入組合では、最後の大詰めを向かえているタイとのFTA交渉において、経済産業省や日本繊維産業連盟と連携し、日本提案に基づく合意に向け民間ベースでの側面協力を行っております。衣類については、中国からの輸入が90%を超える一極集中となった今日、FTA締結でタイからの輸入関税がゼロになれば、リスクヘッジのため中国からの生産拠点分散を考えるにあたり大きなインセンティブとなり、供給先の多角化による安定供給を目指す輸入組合にとって歓迎すべき事であります。また、タイの輸入関税がゼロになれば、日本からのタイ向け繊維輸出においてもメリットが生じます。今後の日・タイ繊維貿易発展のためにも、経済産業省の方々には早期締結のため引き続きご尽力賜りますようお願い申し上げます。

また、輸入・輸出両組合では、両組合の事務局統合に向けて両組合の業務提携を一層進めております。両組合は厳しい貿易環境の下で、事務局機能を統合することにより、組合業務の効率化と機能強化を図り、組合員の皆様のニーズに応える所存でありますので、引き続き皆様のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、ご当局、関係業界、そして組合員ほか皆様のご指導、ご高配を賜りますよう、宜しくお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝と一層のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



2005年11月の繊維品輸出概況

- ・ 繊維品全体の輸出
- 前年同月比7%減の6億4,148万ドルと5ヶ月連続の減少 -

2005年11月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比7%減(1-11月前年同期比:2%減)の6億4,148万ドルとなった。2005年年上半期は増勢基調で推移してきたが、下半期に入り5ヶ月連続の減少となっている。

但し、為替は2004年11月の104.9円に対し、2005年11月は118.41円と約13%の急激な円安推移となっていることから、円ベースでは5%増(同2%減)の759億5,800万円とドルベースとは逆に増加推移となった。

< 主要地域別輸出 >

11月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の77%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが前年同月比5%減(同3%減)の5億813万ドルとこの5ヶ月減少が続いており、全体の輸出減少の地域的な最大の要因となっている。

東アジアの主要国向けでは、韓国、タイ、マレーシアが微増となったが、その他市場は総じて不振で、最大市場の中国を始め、香港、台湾、ベトナム、シンガポール、フィリピン、インドネシアが減少推移となった。中でも、わが国の繊維品輸出を主導してきた中国が、微減ではあるが、6ヶ月連続の減少となり、このところ伸びが止まっているのが、先行きの大きな懸念材料となっている。

純輸出市場向けは、シェア3%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が増加したが、イランが半減し、全体として6%減(同2%減)の2,564万ドルと低調な推移となった。

欧米市場も不振で、シェア8%のEUは18%減(同1%減)の4,168万ドル、シェア7%の米国は16%減(同横ばい)の4,446万ドルと共に2桁の減少推移となった。

< 主要商品別輸出 >

11月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で4%減(同3%減)、金額で2%減(同6%増)と、数量、金額共に減少した。太宗の合繊綿は、数量で3%減(同2%減)、金額で横ばい(同9%増)となった。この内、主力のアクリル綿は、最大輸出先の中国は大きく伸びたが、タイ、イランが半減し、全体としては、数量で1%減(同1%減)の微減となった。但し、金額では3%増(同10%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、中国、米国は健闘したが、タイ、EUが落ち込み、数量で14%減(同12%減)、金額で12%減(同1%減)となった。

織維品輸出実績(2005年11月)

単位	2005年11月					2005年1月～11月					2004年実績				
	数量	金額		前年同月比		数量	金額		前年同期比		数量	金額		金額	
		百万円	千ドル	数量	ドル		百万円	千ドル	数量	円		ドル	百万円		千ドル
織維品総合計		75,958	641,484	93		800,261	7,312,705	98	98		900,766	8,330,992			
原料(綿)合計	30,720	8,564	72,329	96	382,816	97,984	896,112	97	107	427,993	99,966	923,956			
スフ綿	5,271	2,122	17,918	92	57,999	21,244	193,941	96	100	66,597	23,267	215,237			
合繊綿	22,481	6,242	52,713	97	291,513	74,067	677,595	98	110	321,629	73,095	675,403			
(ポリエステル)	3,077	573	4,841	86	41,379	7,157	65,581	88	99	51,865	8,007	74,063			
(アクリル)	17,613	4,686	39,576	99	224,165	54,028	493,823	99	111	243,538	52,514	485,070			
糸合計	10,244	7,809	65,946	83	120,343	86,199	788,948	98	101	135,543	94,082	870,337			
人絹糸	996	867	7,319	97	11,606	8,665	79,183	115	124	11,482	7,864	72,916			
スフ糸	31	43	361	69	289	400	3,666	85	75	372	591	5,477			
合繊長糸	8,120	5,719	48,294	80	97,707	66,203	606,604	97	99	110,548	73,641	681,155			
(ナイロン)	1,941	1,429	12,065	74	21,682	15,203	139,351	87	94	27,504	17,566	162,369			
(ポリエステル)	2,817	1,265	10,687	72	36,285	16,062	147,272	97	105	40,805	16,719	154,685			
合繊短糸	361	306	2,587	86	4,020	3,254	29,708	75	86	5,733	4,164	38,476			
絹糸	566	496	4,189	103	4,826	3,688	33,580	113	114	4,854	3,756	34,881			
織物合計	103,757	31,458	265,667	98	1,096,221	320,180	2,925,326	95	94	1,295,836	384,270	3,557,638			
絹織物	832	1,137	9,603	142	7,540	12,209	111,648	116	101	7,280	13,304	123,079			
人絹織物	6,515	2,065	17,440	121	73,855	22,773	208,077	106	95	77,844	26,662	246,677			
スフ織物	1,160	539	4,553	81	11,147	4,518	41,376	77	75	16,372	6,923	64,317			
合繊長織物	48,120	10,542	89,030	98	515,794	109,127	995,805	93	94	611,549	129,896	1,201,387			
(ナイロン)	5,159	1,104	9,324	108	53,016	10,546	96,129	107	105	55,195	11,163	103,187			
(ポリエステル)	38,109	7,938	67,038	98	406,907	82,111	748,833	91	93	493,931	98,356	909,292			
合繊短織物	13,638	3,400	28,717	102	149,757	35,301	322,757	102	102	166,635	39,208	363,303			
綿織物	28,397	10,312	87,090	91	285,172	98,213	900,041	91	91	354,304	123,887	1,149,181			
毛織物	4,837	3,243	27,384	94	49,804	35,653	323,313	93	92	58,795	42,026	387,539			
不織布	55,391	4,858	41,025	123	534,191	50,370	460,188	103	107	574,520	51,660	477,610			
タイヤコード織物	865	156	1,321	51	14,172	2,375	21,819	104	119	15,129	2,190	20,254			
コーテッド織物	1,207	3,243	27,389	96	16,265	39,088	357,363	103	104	17,238	41,001	378,474			
ニット生地		6,217	52,503	112		58,866	536,844		106	105	61,999	573,419			
アパレル		3,460	29,220	83		37,613	343,968		76	75	53,076	489,518			
その他		10,193	86,084	102		107,586	982,138		105	104	112,522	1,039,786			

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが大幅に減少し、数量で 29% 減(同 7% 増)、金額で 32% 減(同 11% 増)となった。

スフ綿は、主力の中国を始めとする東アジアが減少し、数量で 8% 減(同 4% 減)、金額で 4% 減(同 1% 減)となった。

糸類の輸出は、数量で 17% 減(同 2% 減)、金額で 16% 減(同横ばい)と、数量、金額共に 2 桁の減少となった。

主力の合繊長糸は数量で 20% 減(同 3% 減)、金額で 20% 減(同 2% 減)となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国を中心とする東アジア、米国、EU が共に振るわず、数量で 28% 減(同 3% 減)、金額で 28% 減(同 5% 増)と大幅減少となった。一方、ナイロン糸も、主要国のタイ、中国、フィリピン、EU が共に不振で、数量で 26% 減(同 13% 減)、金額で 25% 減(同 6% 減)と大きく後退した。その他の合繊長糸では、ポリウレタン糸は中国、香港等東アジアが振るわず、数量で 19% 減(同 8% 減)、金額では 31% 減(同 21% 減)となった。

また、人絹糸は、中国、EU は健闘したが、韓国が大きく減少し、数量で 3% 減(同 15% 増)となった。但し、単価のアップにより、金額では 8% 増(同 23% 増)となった。

太宗の織物類の輸出は、数量で 2% 減(同 5% 減)、金額で 12% 減(同 7% 減)と数量、金額共に引き続き低調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で 2% 減(同 9% 減)、金額で 9% 減(同 8% 減)となった。

地域的には、全体の 72% を占める東アジア向けは、中国、韓国、タイ、シンガポール、スリランカが好調に推移し、香港、ベトナム、台湾、インドネシアは不振に終わったが、東アジア全体として 5% 増(同 6% 減)となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が揃って増加推移となったが、アフガニスタンが壊滅となり、西アジア全体として 1% 減(同 6% 減)の微減となった。

欧米市場向けは、引き続き揃って不振で、EU 向けは 23% 減(同 15% 減)、米国は 44% 減(同 29% 減)と激減した。

ナイロン織物は、数量で 8% 増(同 7% 増)、金額で 6% 増(同 4% 増)と数量、金額共に前月に続き増加推移となった。シェア 81% の東アジア向けは、主力の中国が好調に推移、ベトナムも激増し、香港が減少したが、全体として 14% 増(同 11% 増)となった。一方、シェア 9% の米国は 28% 減(同 5% 減)となった。

綿織物は、数量で 9% 減(同 9% 減)、金額で 18% 減(同 9% 減)と数量、金額共にこの 4 ヶ月減少が続いている。82% のシェアを占める最大市場の東アジア向けは、中国が微増。また、タイ、マレーシアが健闘したものの、香港、ベトナム、韓国、台湾が減少し、東アジア全体として 7% 減(同 7% 減)となった。その他の市場では、シェア 11% の米国は 12% 減(同 13% 減)、シェア 2% の EU は 50% 減(同 11% 減)と何れも不振に終わった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で 4% 増(同 3% 増)、金額で 1% 減(同 2% 増)と数量増の

金額減となった。全体の 64%を占める東アジア向けは、ベトナム、香港が健闘したが、圧倒的シェアを占める中国が減少し、東アジア全体として 3%減（同 2%減）となった。一方、シェア 34%の民族衣装用の西アジアは、クエートが減少したが、アラブ首長国、サウジアラビアが共に大幅に伸び、西アジア全体として 20%増（同 15%増）と先月に続き好調な推移となった。

人絹織物は、数量で 21%増（同 6%増）と大幅増となったが、金額は単価のダウンにより 5%減（同 6%減）と数量増の金額減となった。シェア 73%の東アジアは、香港、中国の 2 大市場が好調に推移し、東アジア全体として 29%増（同 11%増）となった。また、シェア 11%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が共に伸び、全体として 6%増（同 1%増）となった。一方、欧米市場は、EU が 8%減（同 14%減）、米国が 16%減（同 33%減）と揃って低調な推移となった。

毛織物は、数量で 6%減（同 7%減）、金額で 13%減（同 9%減）と数量、金額共に不振推移となった。地域的には、東アジアが 97%とほぼ全量を占めている。香港、ベトナム、台湾は好調に推移したが、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国が減少し、東アジア全体として 7%減（同 8%減）となった。

不織布の輸出は、数量で 23%増（同 3%増）、金額で 3%増（同 7%増）となった。全体の 61%を占める東アジアは、韓国が激減したが、中国、香港、台湾、タイが健闘し、全体として 2%増（同 16%減）となった。一方、欧米市場は、シェア 28%の米国は 112%増（同 89%増）とこのところ驚異的な伸びが続き、量的には最大の輸出市場となっている。また、シェア 7%の EU も 26%増（同 25%増）と大幅な増加となった。

コーテッド織物の輸出は、数量で 4%減（同 3%増）、金額で 2%減（同 4%増）となった。全体の 80%を占める東アジアは、ベトナム、タイ、インドネシアが好調に推移したが、中国、香港が減少推移となり、全体として 5%減（同 1%増）となった。欧米市場は、シェア 7%の米国は 20%減（同 26%増）、一方シェア 5%の EU は 6%減（同 2%減）と共に減少推移となった。

ニット生地の輸出は、数量で 19%増（同 3%増）、金額で 12%増（同 5%増）と数量、金額共に 2 桁の伸びとなった。全体の約 9 割強を占める東アジア向けは、最大市場の中国を始め、香港、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア等主要国は揃って増加推移となった。一方、欧米市場向けも、米国、EU 共に大幅に増加した。

アパレルの輸出は、金額で 17%減（同 25%減）と大幅な後退が続いている。

内容的には、布帛製衣類の外衣類は、台湾、中国、米国が不振で、金額で 13%減（同 4%増）となった。下着類も、中国、香港は健闘したが、台湾が激減し、金額で 36%減（同 25%減）と大きく減少した。

一方、ニット製衣類は、ニット製衣類輸出の主力であった香港向けのニットパネル（最終中国で編み立て後米国向け）の輸出が、2005 年からの米国の対中国枠の撤廃により、激減状況が続いていたが、外衣類は香港向けにスカート・ドレス等が増加し、金額で 9%増（同 47%

減)と徐々に増加に転じた。一方、下着類は49%減(同43%減)と引き続き大幅な減少となっている。

・原料(綿・糸)の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、主要品目ではナイロン綿が増加推移となった他は、主力のアクリル綿が微減推移、ポリエステル綿、ビニロン綿、スフ綿が減少推移となり、全体では4%減の30,720トン、金額についても2%減の7,232万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は主力の合繊長繊維糸をはじめとして全般的に低調な推移となり、全体では17%減の10,244トン。金額についても16%減の6,594万ドルとなった。

2005年11月の原料(綿・糸)の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2005年11月				2005年1～11月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	5,271	92	17,918	340	57,999	96	193,941	334
合繊綿	22,481	97	52,713	234	291,513	98	677,595	232
ポリエステル	3,077	86	4,841	157	41,379	88	65,581	158
アクリル	17,613	99	39,576	225	224,165	99	493,823	220
他合繊綿	1,792	99	8,295	463	25,970	109	118,191	455
人絹糸	996	97	7,319	735	11,606	115	79,183	682
合繊長糸	8,120	80	48,294	595	97,707	97	606,604	621
ナイロン	1,941	74	12,065	622	21,682	87	139,351	643
ポリエステル	2,817	72	10,687	379	36,285	97	147,272	406
他合長糸	3,364	95	25,543	759	39,740	104	319,982	805
綿糸	566	103	4,189	740	4,826	113	33,580	696

・織・編物(絹・化合繊・綿・毛)の輸出

2005年11月の織・編物(絹・化合繊・綿・毛)の輸出は、ナイロン織物等一部品目は健闘したが、ポリエステル(長)織物を始め、綿織物、毛織物の主要織物が、為替の急激な円安もあり、特に金額(ドルベース)で低調な推移となり、織物トータルとして、数量で前年同月比2%減(前年同期比5%減)、金額で12%減(同7%減)となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていないが、ニット生地は好調推移、一方コーテッド織物は微減推移となった。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジア主要国では、タイ、マレーシアが数量、金額共に前年同月を上回り、好調に推移。最大市場の中国を始め香港、韓国、ベトナムは数量増の金額減。インドネシアは数量減の金額増。台湾、シンガポール、フィリピンは数量、金額共に前年同月を下回った。

純輸出市場では、西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビアが数量、金額共に前年同月を上回り好調に推移。

一方、欧米市場は、主力のポリエステル（長）織物、綿織物が共に振るわず、数量、金額共に減少推移となった。

2005年11月の織・織物の輸出状況

単位：1,000SM、1,000\$、前年比は数量比%

	2005年11月			2005年1-11月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	832	9,603	142	7,540	111,648	116
人絹織物	6,515	17,440	121	73,855	208,077	106
スフ織物	1,160	4,553	81	11,147	41,376	77
合織（長）織物	48,120	89,030	98	515,794	995,805	93
ポリ（長）織物	38,109	67,038	98	406,907	748,833	91
ナイロン織物	5,159	9,324	108	53,016	96,129	107
合織（短）織物	13,638	28,717	102	149,757	322,757	102
ポリ（短）織物	12,665	26,799	104	137,205	297,439	103
綿織物	28,397	87,090	91	285,172	900,041	91
毛織物	4,837	27,384	94	49,804	323,313	93
コーテッド織物	1,207	27,389	96	16,265	357,363	103
ニット生地	17,104	52,503	119	162,892	536,844	103

（注）1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

・主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2005年11月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは総じて振るわず、全体では前年同月比17%減の29,220千ドルとなった。他方、その他の品目についても、敷物が増加推移となった他は、漁網・その他の網・網地、細幅織物・紐類いずれも減少推移となった。

2005年11月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2005年11月		2005年1～11月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	16,982	84	191,488	92
外 衣	9,915	87	115,272	104
下 着	2,890	64	39,559	75
スカーフ・マフラー	694	76	7,325	102
ニット製衣類・付属品	12,238	81	152,480	61
外 衣	6,271	109	53,621	53
下 着	3,257	51	66,053	57
敷 物	2,672	131	29,650	120
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	2,647	92	34,074	117
細 幅 織 物 ・ 紐 類	16,586	92	172,442	103

2005年10月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

10月の輸入は、金額が円ベース前年同期比106.7%(前月比は91.6%)、ドルベース同101.3%(前月比は88.6%)、数量(重量)同99.8%(前月比は95.7%)と、円・ドル金額が3ヶ月連続で増加、数量は2ヶ月連続で微減となった。前月比は、秋冬物の輸入ピークを過ぎ金額、数量ともに減少した。

糸類は、数量で前年同期比12.9%減と前月から減少幅が拡大し5ヶ月連続で減少、内訳は、絹糸、毛糸が増加、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸、その他の糸が減少した。織物類は同3.6%増と3ヶ月連続で増加、絹織物、毛織物、黄麻織物、人織(長)織物、人織(短)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加し、綿織物は減少した。衣類は同2.1%減と2ヶ月連続で減少。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同9.3%増と12ヶ月続けて増加した。

前月は円金額が1.8%、ドル金額が0.8%の増加、数量が1.5%減少したが、今月も円金額が6.7%、ドル金額が1.3%の増加、数量が0.2%の微減と、ほぼ前月同様となった。内訳を円金

額で見ると、二次製品が 16.5%の大幅増で引き続き増加しており、太宗を占める衣類も金額では 5.9%、織物類も 9.4%の増加となったが、糸類は 5.6%減少し、繊維製品計では 6.7%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで混紡綿糸の輸入が増加したことで前月比 4.4%の増加となり 4 ヶ月ぶりに 5,000 トン台は脱したものの、前年同月比は 16.6%の大幅減少となり 5 ヶ月連続で前年同月を下回った。全体の 85%以上を占める純綿糸の輸入を前月に比較すると、国別では 3 位のインドが 14.7%の減少となったものの、首位のパキスタンが 0.5%増のほぼ横ばい、2 位のインドネシアは 12.5%増、中国も 3.6%増加となった。番手別では量的に最も多い 40 番手以上が 3.2%増、30 番手中心が 10.7%増となったが、太番手の 20 番手中心は 10.3%のマイナスとなった。糸種別にみると、カード糸は 3.4%増となったが コ - マ糸は 2.7%の増加となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース 1.4%増と前月まで 1 年間続いた減少から増加に転じ 13 ヶ月ぶりの増加となった。糸種別に見ると、紡毛糸の輸入が同 35.0%増と 2 ヶ月連続で増加となり、太宗を占める梳毛糸が同プラス・マイナス 0.0%と前年並みまで回復した。国別では、トップシェアの中国が同 3.0%増と 3 ヶ月ぶりに増加、次ぐマレーシアも同じく 3.0%の増加となった。この他では、タイ、インド、イタリア、ペルーからの輸入が減少した一方、台湾からの輸入が増加した。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 4.5%の増加となったものの、前年同月比は 9.6%の減少となり 4 ヶ月連続のマイナスとなった。主要商品を前月に比べると主力の台湾などからのポリエステル糸が 4 ヶ月連続プラスの 6.9%増となったものの、反対に米国、台湾からのナイロン糸は 9.4%減の 4 ヶ月連続のマイナスとなり、量的に少ない人絹糸は 22.4%の大幅増加となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C,T/R 糸でインドネシアなどからのポリエステル紡績糸が前月比 18.1%の大幅増となったものの、インドネシア、中国からのマイヤー毛布用のアクリル紡績糸は同マイナス 22.1%、ガムテープ用のスフ糸も同 3.6%の減少となり、全体ではほぼ前月並の水準となったが、前年同月比は依然アクリル紡績糸の落ち込みが続いていることから 20.5%の大幅減と 21 ヶ月連続の前年割れとなった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで実需シーズン入りもあり前月比 5.4%の増加となったが、前年同月比は 7.6%減と 3 ヶ月ぶりにマイナスとなった。国別で前月に比較すると、全体の 8 割を占める中国が 7.8%の増、3 位のマレーシアも 44.2%の大幅増となったが 2 位のインドネシアは 8 ~ 9 月の調整もあり 10.3%の減少となった。品種別にみると主力の

ポプリン 2.4%、金巾 10.1%、粗布・細布 35.0%と、軒並み増加となった。

- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 16.6%増と、2ヶ月ぶりに増加した。イタリアからの輸入が同 1.7%増と小幅ながら増加に転じたのに加え、中国からの輸入が前月の減少から一転し 14.2%の大幅増となったことによる。品種別では、紡毛織物が同 3.8%減と5ヶ月連続の減少となったものの、主力の梳毛織物が前月大幅減の反動から同 18.9%の大幅増加となった。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 11.2%増、前年同月比も 39.5%の大幅増となり 12ヶ月連続のプラスとなった。品目別に前月に比較すると、主力商品のポリエステル織物が 2.5%の微増に留まったが量的に少ないナイロン織物が2倍強の増加、ポリプロピレン等其の他織物も 10.5%の増加となるなど軒並みプラスとなった。国別で見ると、韓国がポリプロピレン等織物の増加により中国を抜き首位となり 38.7%の大幅増、台湾もポリエステル織物の増加により 35.9%の増となった。一方、人織(短)織物も主力のT/C織物が 13.5%の増、スフ織物も 7.6%増となったこともあり全体では 7.8%の増加、前年同月比も 3.2%の増加となった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比枚数で 0.2%増、布帛製衣類も同 3.2%増、身の廻り品は重量ベース 1.0%減となり、衣類計では重量ベース 2.1%減となった。ニット製衣類が3ヶ月連続で増加、布帛製衣類は2ヶ月ぶりに増加、身の廻り品は3ヶ月ぶりに減少し、衣類計は2ヶ月連続で減少となった。

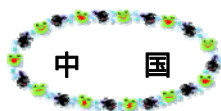
主要国別に見ると

- 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が 0.4%減少し3ヶ月ぶりの減少、布帛製衣類は 2.2%増加し2ヶ月ぶりに増加、身の廻り品は重量ベース 0.4%減で12ヶ月ぶりの減少となった。今年1月から10月までの累計の衣類計(重量ベース)のシェアは 91.2%となった(金額ベースでのシェアは 81.5%)。
- 韓国はニット製衣類が同 29.2%増加、布帛製衣類も 255.8%増で約 3.5倍となり7ヶ月連続で大幅に増加した。ニット製衣類が19ヶ月ぶりの増加、布帛製衣類も7ヶ月連続で増加した。
- イタリアはニット製衣類が同 29.8%減と10ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 7.2%減と5ヶ月連続で減少。
- ベトナムはニット製衣類が同 4.4%増と6ヶ月続けて増加、布帛製衣類も 1.3%増と5ヶ月ぶりの減少となった前月から再び増加した。

- 商品別には、ニット製衣類ではアンサンブル、ジャケット、ドレス、スカート、アウターシャツ、スポーツウェア、下着類が増加、コート、スーツ、ズボン、セーターが減少。布帛製衣類では紳士用はジャケット、ズボンが増加、コート、スーツ、アンサンブル、下着類が減少、婦人用ではジャケット、スカート、ブラウスが増加、スーツ、アンサンブル、ズボン、下着類が減少した。

前月は数量が1.5%減、金額は2%未満の落ち着いた輸入となったが、今月も数量が0.2%の微減、金額は円が6.7%、ドルが1.3%それぞれ増加し前月とほぼ同様ながら僅かに上回る輸入となった。なお、10月の為替レートは前年同月に比べ約6円の円安となっている。

百貨店、量販店、ファッションビルなど大型店の衣料商戦は、11月に入って急浮上している。10月は一部を除き、高温が響いて不振だったが、気温の低下に伴って冬物が動き始めた。コートはショートトレンチ、ファー付きダウンなどに動きがみられ、ジャケット、スカートも秋物からの勢いを継続している。



2005年1～10月の繊維品貿易・輸出は大幅増、輸入は微減

< 輸出は23%増の891億9,421万ドル、10月単月は20%増 >

このほど発表された中国の海関統計によると、2005年1-10月の中国の繊維品輸出は、23%増の891億9,421万ドルとなった。

単月の輸出状況をみると、枠フリーの時代に入り、1月は29%増、2月34%増と大幅に伸び、3月は一旦4%増と大きく減速したが、4月16%増、5月23%増、6月29%増、7月24%増、8月34%増、9月22%増、10月20%増で、依然高率の増加が続いていることに変わりはないが、8月をピークとして伸びは鈍化してきている。

< 品目別輸出 >

品目別では、中国の繊維品輸出全体の61%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は22%増の547億1,400万ドルとなった。内容的には、ニット製衣料品及び同付属品が20%増の253億6,493万ドル、また布帛製衣料品及び同付属品は23%増の293億4,907万ドルとなっている。

織物類の輸出も、数量で15%増の136億5,758万メートル、金額で17%増の126億5,387万ドルと順調に推移している。

2005年10月の中国の繊維品輸出入状況

単位: 1000ドル

	輸 入				輸 出				
	2004年実績		2005年1月～10月		2004年実績		2005年1月～10月		前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計		23,001,764		19,118,902		89,194,214		123	
スフ綿	TON	3,891,010	6,632,920	3,531,187	5,483,497	294,354	294,354	144	138
合繊綿	TON	172,961	476,381	139,307	397,437	13,687	24,285	145	140
(ポリエステル)	TON	992,584	1,375,307	715,494	1,180,643	175,177	204,579	169	194
(アクリル)	TON	507,255	531,489	298,756	364,758	144,515	143,411	179	204
糸合計	TON	459,536	775,295	395,980	748,740	1,718	3,092	114	133
人絹糸	TON	1,717,755	3,935,831	1,386,375	3,399,231	1,173,841	4,193,749	118	117
スフ糸	TON	29,258	83,019	22,865	66,679	61,124	223,189	115	112
合繊長繊維糸	TON	32,122	93,698	23,727	77,863	26,812	95,311	115	136
(ナイロン)	TON	714,316	1,544,504	511,745	1,284,841	223,802	519,881	180	183
(ポリエステル)	TON	259,232	557,874	210,462	550,010	55,360	166,602	148	172
合繊短繊維糸	TON	369,166	573,417	242,087	431,528	136,985	207,686	205	240
綿糸	TON	172,837	416,877	133,091	334,089	329,799	876,531	99	110
織物合計	千LM	714,472	1,531,898	651,949	1,397,300	432,231	1,336,555	110	104
絹織物	千LM	5,059,862	6,254,606	3,756,206	4,859,542	14,815,314	13,528,587	115	117
人絹織物	千LM	40,805	115,424	32,989	92,169	250,975	582,843	120	128
スフ織物	千LM	86,658	110,117	69,319	99,779	50,604	41,434	68	74
合繊長繊維織物	千LM	78,366	125,482	48,690	82,729	756,670	554,797	120	119
(ナイロン)	千LM	2,241,724	2,066,586	1,650,598	1,663,254	5,643,938	4,377,607	112	112
(ポリエステル)	千LM	797,863	612,423	552,348	490,016	257,064	121,257	96	116
合繊短繊維織物	千LM	1,102,705	1,063,056	731,938	833,542	4,747,972	3,669,996	111	111
綿織物	千LM	793,149	884,220	578,503	652,934	2,962,742	1,797,116	114	129
毛織物	千LM	1,612,068	2,174,494	1,247,390	1,715,538	4,801,301	5,251,183	118	117
不織布	千LM	77,059	610,479	59,911	453,241	95,644	504,203	109	109
タイヤコード織物	TON	113,385	408,535	111,517	402,384	107,682	236,426	154	156
コート織物	TON	22,211	79,860	14,692	57,397	58,181	163,943	148	185
ニット生地	TON	292,959	964,618	216,251	834,059	351,260	810,731	135	142
ニット製衣料	TON	463,329	1,813,034	379,021	1,545,822	808,669	2,995,153	114	121
布帛製衣料			641,839		567,911		25,804,518		120
その他			792,205		656,662		28,983,243		123
			1,478,315		1,312,396		11,161,236		135

出所: 中国海関統計

内訳は、前年は苦戦した最大品目の綿織物が、数量で 18% 増の 44 億 7,757 万メートル、金額で 17% 増の 48 億 6,429 万ドルと好調に推移、一方ポリエステル長繊維織物は、数量で 11% 増の 42 億 7,626 万メートル、金額で 11% 増の 32 億 7,863 万ドルと依然 2 桁の伸びを維持しているが、EU のダンピング実施の影響もあり、伸び率は昨年と比べ大きく鈍化している。

その他の主要織物では、合繊短繊維織物が数量で 14% 増の 27 億 6,116 万メートル、金額で 29% 増の 18 億 8,907 万ドル、ニット生地が数量で 14% 増の 77 万 1,521 トン、金額で 21% 増の 30 億 864 万ドルとなっている。

糸関係の輸出は、特に合繊長繊維糸の増加が著しく、全体として数量で 18% 増の 115 万 5,153 トン、金額で 17% 増の 41 億 6,267 万ドルとなっている。

内訳では、最大品目の綿糸は、数量で 10% 増の 39 万 7,473 トン、金額で 4% 増の 11 億 8,695 万ドルと順調に推移している。続く合繊長繊維糸は国内での大増産を背景に、数量で 80% 増の 30 万 9,601 トン、金額で 83% 増の 7 億 3,389 万ドルと数量、金額共に飛躍的に増加しているのが注目される。合繊長繊維糸のうち、特にポリエステル長繊維糸は、数量で 105% 増の 21 万 1,290 トン、金額で 140% 増の 3 億 6,405 万ドルと激増しており、ナイロン糸も数量で 48% 増の 6 万 5,273 トン、金額で 72% 増の 2 億 2,486 万ドルと大幅な伸びとなった。合繊短繊維糸は、数量で 1% 減の 27 万 6,811 トン、金額で 10% 増の 8 億 1,625 万ドルとなっている。

綿類の輸出は、綿花は減少しているが、羊毛及びポリエステル綿、スフ綿が大きく伸び、数量で 44% 増の 29 万 4,354 トン、金額で 38% 増の 9 億 5,160 万ドルと大幅に増加している。

< 国別輸出 >

地域別では、東アジアがシェア 42% (1% 増) を占め、西アジアが 6% (22% 増)、ヨーロッパが 23% (56% 増)、北米が 17% (79% 増)、中米が 2% (1% 減)、南米が 2% (19% 増)、アフリカが 5% (25% 増)、大洋州が 2% (16% 増) の市場構成となっている。

国別では、1 位 EU (148 億 1,888 万ドル：65% 増)、続いて日本 (141 億 3,216 万ドル：6% 増)、米国 (137 億 2,959 万ドル：81% 増)、香港 (117 億 3,687 万ドル：15% 減)、韓国 (32 億 9,651 万ドル：4% 減) の順で、この 5 大市場で全体の輸出の 65% のシェアを占めているが、予想されたとおり、特に 2005 年より枠が撤廃された EU、米国向けが衣料品を中心に突出した伸びとなっている。

主要輸出品目別に国別輸出先を見ると、衣料品については、ニット製衣料品は、トップ市場は日本 (53 億 9,756 万ドル：10% 増)、続いて EU (42 億 5,991 万ドル：95% 増)、米国 (40 億 4,086 万ドル：99% 増)、香港 (25 億 389 万ドル：38% 減)、韓国 (8 億 7,373 万ドル：24% 減)、ロシア (8 億 6,220 万ドル：38% 増) の順となっている。また、布帛製衣料品の輸出先は 1 位が日本 (63 億 7,611 万ドル：2% 増)、EU (63 億 6,089 万ドル：67% 増)、米国 (56 億 2,203 万ドル：92% 増)、香港 (26 億 4,236 万ドル：25% 減)、ロシア (13 億 6,364 万ドル：72% 増)、韓国 (10 億 815 万ドル：11% 減) の順となっている。

織物類については、綿織物の主要輸出先は、香港 (9 億 4,796 万メートル：横ばい)、パングラデシュ (3 億 1,117 万メートル：27% 増)、韓国 (3 億 9 万メートル：24% 増)、ベニン (2 億 9,159 万メートル：71% 増)、日本 (2 億 3,752 万メートル：7% 増)、米国 (2 億 1,833 万

メートル：72%増）、EU（2億529万メートル：74%増）の順となっている。

合繊短繊維織物は、第1位が香港（3億9,422万メートル：8%減）で、以下韓国（2億1,153万メートル：3%増）、アラブ首長国（1億3,207万メートル：4%増）、EU（1億2,764万メートル：285%増）、バングラデシュ（1億2,358万メートル：横ばい）、ミャンマー（1億2,059万メートル：48%増）の順となっている。

一方、ポリエステル長繊維織物の主要輸出先は、アラブ首長国（4億9,282万メートル：6%減）、EU（3億5,948万メートル：21%減）、イラン（3億3,810万メートル：2%減）、ブラジル（2億2,790万メートル：11%増）、香港（1億8,739万メートル：6%減）、パキスタン（1億6,525万メートル：47%増）、サウジアラビア（1億4,756万メートル：8%増）、米国（1億4,716万メートル：34倍増）の順となっている。EUの減少は、2005年3月中旬のダンピング関税賦課の影響であるが、対照的に米国向けが激増しており、9月からその一部はセーフガード対象品目となっている。

< 輸入は1%減の191億1,890万ドルと微減推移 >

輸入は、2004年は、特に前半に、綿花の輸入が激増したこともあり、大きく伸びたが、2005年は、国内での増産もあり、総じて低調で、全体では前年同期比1%減の191億1,890万ドルと微減推移となっている。

この結果、中国の2005年1-10月繊維品貿易収支の黒字額は前年比32%増の700億7,531万ドルとなり、中国の外貨獲得の最大貢献産業となっている。このうち、主要国との繊維品貿易をみると、日本とは110億6,528万ドル、香港とは102億4,588万ドル、米国とは119億9,337万ドル、EUとは136億2,814万ドルの各々の黒字となり、この4カ国で中国の繊維品貿易全体黒字額の67%を占めている。

< 品目別輸入 >

輸入の品目別内訳では、まず綿関係は、数量で1%増の353万1,187トン、金額で7%減の54億8,350ドルと数量微増の金額減となっている。このうち、合繊綿の輸入は、数量で16%減の71万5,494トン、但し、金額では2%増の11億8,064万ドルとなった。合繊綿の内訳は、アクリル綿が数量で1%増の39万5,980トン、金額で15%増の7億4,874万ドルと増勢で推移しているが、ポリエステル綿は数量で32%減の29万8,756トン、金額で20%減の3億6,476万ドルと大きく後退している。

糸類の輸入は、数量で5%減の138万6,375トン、金額で2%増の33億9,923万ドルと数量減の金額微増となっている。品目別では、最大品目の綿糸は、数量で9%増の65万1,949トン、金額で10%増の13億9,736万ドルと数量、金額共に増勢推移となった。合繊長繊維糸は、数量で17%減の51万1,745トン、金額で1%減の12億8,484万ドルで、この内訳は、大宗のポリエステル糸は数量で25%減の24万2,087トン、金額で12%減の4億3,153万ドル、一方、ナイロン糸は、数量で5%減の21万462トン、但し金額では19%増の5億5,001万ドルとなっている。また、合繊短繊維糸は数量で12%減の13万3,091トン、金額で9%減の3億

3,409万ドルとなった。

一方、織物類の輸入については、数量で8%減の37億5,621万メートル、金額で2%減の48億5,954万ドルとなっている。

品目別では、最大輸入品目の合繊長繊維織物は数量で11%減の16億5,060万メートル、金額で1%減の16億6,325万ドルとなった。内訳は、ポリエステル(長)織物が数量で20%減の7億3,194万メートル、金額で4%減の8億3,354万ドル、ナイロン織物が数量で16%減の5億5,235万メートル、金額で3%減の4億9,002万ドルとなった。綿織物は数量で1%減の12億4,739万メートル、金額で1%増の17億1,554万ドル、また合繊短繊維織物は数量で10%減の5億7,850万メートル、金額で9%減の6億5,293万ドルとなった。

その他品目では、ニット生地が数量で横ばい(37万9,021トン)、金額で4%増(15億4,582万ドル)、コーテッド織物が数量で9%減(21万6,251トン)、金額で6%増(8億3,406万ドル)となっている。

衣料品の輸入は、布帛製衣料品が3%増の6億5,666万ドル、ニット製衣料品は4%増の5億6,791万ドルと各々微増となっている。

< 国別輸入 >

国別輸入では、日本(30億6,687万ドル:2%減)、台湾(27億8,172万ドル:5%減)、韓国(24億1,874万ドル:1%増)、米国(17億3,622万ドル:19%減)、香港(14億9,100万ドル:6%減)、EU(11億9,073万ドル:16%増)がベスト6で、加工用の原材料を中心に、これら6カ国からの輸入で全体の66%を占めている。因みに、州別構成では、東アジアからの輸入が全体の72%(1%増)を占め、北米が9%(19%減)、欧州が7%(16%増)、大洋州が6%(9%増)となっている。

主要輸入品目別に国別輸入先を見ると、合繊綿の輸入は、金額ベースでは、日本(3億2,070万ドル:24%増)、台湾(2億5,337万ドル:21%減)、韓国(2億3,291万ドル:9%減)、EU(1億70万ドル:33%増)、タイ(9,541万ドル:23%増)の順で、この5カ国で全体の85%を占めている。また、数量ベースでは、台湾(18万3,433トン:36%減)、韓国(15万6,479トン:23%減)、日本(15万2,448トン:8%増)、タイ(6万6,871トン:横ばい)、EU(5万536トン:15%増)の順となっている。

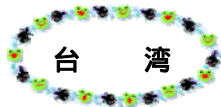
一方、合繊長繊維糸の輸入は、金額ベースで、台湾(5億7,135万ドル:8%減)がトップで、続いて韓国(2億3,949万ドル:10%減)、日本(1億1,777万ドル:3%減)の順で、この3カ国で全体の72%を占めており、何れも減少推移となった。また、数量ベースでも、台湾(30万239トン:21%減)、韓国(8万2,382トン:27%減)、日本(1万7,749トン:5%減)と各々減少している。

織物類の輸入は上記3国と香港の4カ国からの輸入が圧倒的なシェアを占めている。

合繊長繊維織物については、1位が台湾(7億4,248万メートル:19%減)、続いて韓国(3億7,799万メートル:13%増)、日本(2億807万メートル:6%減)、香港(1億1,053万メートル:26%減)の順で、この4カ国で全体の87%を占め、韓国を除き何れも減少推移となっている。

合繊短繊維織物の輸入も、台湾（1億8,940万メートル：13%減）、韓国（1億2,959万メートル：4%減）、日本（8,253万メートル：5%減）、香港（5,947万メートル：26%減）の順で、この4カ国で80%を占めているが、何れも低調な推移となっている。

また、綿織物の輸入は、香港（3億3,643万メートル：横ばい）、日本（1億2,510万メートル：10%減）、パキスタン（1億188万メートル：9%増）、台湾（9,653万メートル：18%減）、韓国（7,488万メートル：8%増）の順となっている。



2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は減少、輸入は微減

< 輸出は6%減の88億6,566万ドルと減少推移 >

台湾の通関統計によれば、2005年1～9月の台湾の繊維品輸出は6%減の88億6,566万ドルで、2004年は若干回復の道を辿ったが、2005年は再び減少に転じている。

市場的には、全体の69%を占める東アジアは、中国向け輸出が9%増（13億7,912万ドル）と伸び、他にベトナムが6%増（6億7,967万ドル）、インドネシア2%増（2億5,181万ドル）、日本5%増（2億4,697万ドル）と増勢で推移しているが、最大市場の香港が10%減の20億5,356万ドルと大きく後退し、全体として3%減の61億4,460万ドルとなった。その他主要市場である欧米市場は、2005年からクオータフリーの時代を迎え注目されるが、シェア13%を占める米国は14%減の11億8,879万ドルと中国の攻勢に押され2桁の減少、一方5%を占めるEUは1%増の4億7,109万ドルと健闘している。

品目別輸出では、原料関係の輸出は、綿類が数量で17%減の59万660トン、金額で6%減の8億5,321万ドル、また糸類は数量で14%減の74万95トン、金額で1%減の16億3,740万ドルと数量、金額共に揃って減少推移となっている。

綿類では、中心品目の合繊綿は、主力のポリエステル綿が数量で17%減の42万5,505トン、金額で4%減の5億2,824万ドル、一方、アクリル綿は、数量で15%減の8万2,017トン、金額で3%減の1億4,824万ドルとなった。ポリエステル綿の主要市場は、EU、ベトナム、中国、香港、米国の順で、EU、ベトナムは数量、金額共に増勢推移となったが、中国、香港、米国は減少推移となった。アクリル綿の主要市場は、中国、香港、インドネシアで、香港は数量、金額共に増加したが、中国、インドネシアは数量、金額共に減少した。

糸類の輸出は、数量で14%減の74万95トン、金額で1%減の16億3,740万ドルとなった。最大品目の合繊長繊維糸は、数量で16%減の62万7,300トン、金額で1%減の13億3,381万ドルとなった。

2005年1～9月の台湾の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸				入					
	2004年実績		2005年(1～9)		2004年実績		2005年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	12,561,115	8,865,659	94	TON	2,702,238	1,931,263	98		
スフ綿	TON	923,029	1,218,160	590,660	83	TON	364,763	422,005	116	
合繊綿	TON	81,866	131,887	46,263	77	TON	13,064	25,140	112	
(ポリエステル)	TON	794,044	969,712	513,781	83	TON	35,571	71,415	90	
(アクリル)	TON	659,809	736,005	425,505	83	TON	13,709	18,568	80	
糸合計	TON	125,009	205,904	82,017	85	TON	6,579	9,291	69	
人絹糸	TON	1,085,928	2,144,699	740,095	86	TON	141,535	458,870	87	
スフ糸	TON	7,640	23,845	5,206	87	TON	3,301	11,634	71	
合繊長繊維糸	TON	11,372	32,079	5,584	63	TON	1,757	5,132	139	
(ナイロン)	TON	938,755	1,756,189	627,300	84	TON	59,997	234,873	87	
(ポリエステル)	TON	221,484	563,009	155,689	88	TON	29,253	95,643	85	
合繊短繊維糸	TON	669,896	1,052,316	440,603	82	TON	14,971	38,470	101	
綿糸	TON	65,253	186,052	47,152	91	TON	31,983	68,147	80	
織物合計	TON	59,774	124,563	52,970	98	TON	42,586	131,396	89	
絹織物	千SM	127	166	1,957,872	94	千SM	221,209	138,078	88	
人絹織物	千SM	57,723	46,652	1,081	2256	千SM	459	3,663	89	
スフ織物	千SM	139,996	161,450	30,652	68	千SM	9,625	9,057	101	
合繊長繊維織物	千SM	1,734,820	1,231,697	77,183	72	千SM	6,410	8,378	74	
(ナイロン)	千SM	938,004	466,334	1,231,697	95	千SM	47,172	32,899	93	
(ポリエステル)	千SM	1,306,737	813,040	547,588	74	千SM	11,130	6,426	102	
合繊短繊維織物	千SM	340,500	286,192	805,601	82	千SM	28,477	23,423	98	
綿織物	千SM	381,939	575,455	283,379	113	千SM	124,852	48,161	69	
毛織物	千SM	505	1,722	253,742	88	千SM	104,552	91,656	94	
不織布	TON	62,097	192,182	286	63	TON	2,228	11,588	105	
タイヤコード織物	TON	33,193	109,606	46,408	97	TON	22,893	87,252	85	
コートツド織物	TON	325,035	1,278,127	24,833	102	TON	10,135	39,393	111	
ニット生地			1,418,945	861,487	73	TON	5,213	57,475	81	
ニット製衣料			987,975	615,817	81			41,497	26,557	88
布帛製衣料			678,609	364,565	71			371,745	297,810	114
その他			1,162,883	897,111	105			573,060	421,732	106
								264,977	203,602	105

出所：台湾通関統計

内訳は、太宗のポリエステル糸が数量で18%減の44万603トン、金額で8%減の7億5,133万ドルと後退、またナイロン糸は数量で12%減の15万5,689トン、但し単価のアップにより、金額は14%増の4億8,524万ドルとなった。ポリエステル糸の主要市場は、中国、ベトナム、香港、EU、日本の順で、数量的にはEUを除いて軒並み減少、金額的にはベトナム、日本、EUは増加したが、その他は減少推移となった。ナイロン糸は、中国、香港が2大市場で数量ベースで全体の74%を占めるが、両市場共に数量減の金額増になっている。

最大輸出品目の織物類は、金額で6%減の19億5,787万ドルと減少推移が続いている。内訳は、中心品目のポリエステル(長)織物が数量で18%減の8億560万平方メートル(SM)、金額で3%減の5億8,497万ドル、ナイロン(長)織物は数量で26%減の5億4,759万SM、金額で2%減の3億3,990万ドルと、共に特に数量面で大きく後退している。

ポリエステル(長)織物の主要市場は、数量ベースで、香港、中国、アラブ首長国、EU、ブラジル、米国の6カ国で、中国、EU、米国は数量、金額共に増加推移となったが、その他は大幅な減少推移となっている。

その他主要織物では、綿織物が数量で12%減の2億5,374万SM、金額で13%減の3億7,354万ドルと低調に推移、一方合繊短繊維織物は数量で13%増の2億8,338万SM、金額で9%増の2億2,601万ドルと主要織物で唯一好調に推移している。また、ニット生地は金額で6%減の14億1,895万ドル、コーテッド織物が金額で10%減の8億6,149万ドルとなっている。

衣料品の輸出も不振で、布帛製衣料品が29%減の3億6,457万ドル、ニット製衣料品が19%減の6億1,582万ドルと、各々大幅な減少となっている。

< 輸入は2%減の19億3,126万ドルと微減推移 >

繊維品の輸入は2%減の19億3,126万ドルと、微減推移となっている。

地域別輸入では、全体の64%を占める東アジアからの輸入は、最大輸入先の香港、中国韓国、ベトナムからの輸入は増加しているが、日本、インド、インドネシア、タイからの輸入が減少し、全体として横ばいの12億4,027万ドルとなった。また、欧米からの輸入は、シェア13%のEUからの輸入は3%減の2億5,786万ドル、同10%の米国からの輸入は2%減の1億9,225万ドルとなっている。

品目別輸入では、綿類は天然繊維原料を中心に数量で16%増の31万6,474トン、但し金額では5%減の4億2,201万ドルとなった。

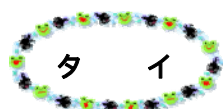
綿類の内訳では、ポリエステル綿中心の合繊綿の輸入は数量で23%減の2万2,252トン、金額で10%減の5,078万ドルと大きく減少している。一方、スフ綿は、数量で12%増の1万1,039トン、金額で22%増の2,236万ドルと増勢推移となっている。

糸類の輸入は、数量で13%減の9万971トン、金額で13%減の2億9,687万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。内訳は、太宗の合繊長繊維糸の輸入は、数量で20%減の3万6,903トン、金額で13%減の1億5,513万ドルとなった。その他では、綿糸が数量で9%増の3万833トン、金額で11%減の8,228万ドルと数量増の金額減、合繊短繊維糸の輸入は数量で

26%減の1万8,131トン、金額で20%減の4,125万ドルと大幅な減少となった。

織物類の輸入は、金額で12%減の1億3,808万ドルと低調な推移となった。内訳は、綿織物が数量で4%増の7,302万SM、金額で6%増の5,540万ドル、合繊短繊維織物が数量で7%増の1億238万SM、金額で31%減の2,514万ドルといずれも数量増の金額減、またポリエステル(長)織物は数量で20%減の1,692万SM、金額で2%減の1,683万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

また、衣料品の輸入は、布帛製衣料品が6%増の4億2,173万ドル、ニット製衣料品が14%増の2億9,781万ドルと香港からの輸入を中心に増加傾向となっている。



2005年1～9月の繊維品貿易・輸出は堅調、輸入は高水準で推移

< 輸出は6%増の50億661万ドルと堅調に推移 >

タイの通関統計によると、2005年1-9月のタイの繊維品輸出は、クオータフリー後、中国品の欧米での攻勢が強まる中で、その動向が注目されるが、前年同期比6%増の50億661万ドルと順調な推移となっている。

これを品目別に見ると、タイの最大輸出品目で繊維品輸出全体の52%を占める衣料品は、ニット製衣料品が最大市場の米国向けの増加により7%増の14億1,368万ドルと大きな伸びとなっているが、布帛製衣料品は欧米向けの伸び悩みにより横ばいの11億7,991万ドルとなっている。

織物類は、量的には伸び悩んでおり、数量で4%減の11万5,156トン、金額で5%増の6億6,861万ドルと、数量減の金額増となった。内訳は、最大品目の綿織物が数量で2%減の4万2,653トン、金額で2%増の2億5,277万ドル、合繊短繊維織物が数量で7%減の3万6,325トン、金額で2%増の2億368万ドルと、各々数量減の金額増となった。

また、合繊長繊維織物も、数量で5%減の2万5,316トン、金額18%増の1億4,067万ドルと、数量減の金額増となっている。このうち、2004年に不振であったナイロン織物は数量で36%増の2,178トン、金額で99%増の1,681万ドルと大きく盛り返しているが、逆に2004年に好調であった太宗のポリエステル長繊維織物は数量で24%減の1万2,030トン、金額で5%減の6,650万ドルと特に数量で大幅な減少に転じている。

原料関係の輸出は、綿類は金額で4%増の3億5,637万ドルと堅調な推移となっている。中心品目の合繊綿は、ポリエステル綿が金額で6%減の2億465万ドルと減少推移、一方、アクリル綿は金額で56%増の6,985万ドルと大きく伸びている。(注:アクリル綿の2004年の数量統計に疑義があり、金額だけの比較。)

2005年1～9月のタイの繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸				入				
	2004年実績		2005年(1～9)		2004年実績		2005年(1～9)		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計	6,419,471	5,006,607		2,716,733	2,236,482			109	
原料(綿)合計	1,057,592	457,679	288,858	356,365	466,926	736,930	484,032	640,632	138
スフ綿	34,770	53,920	32,778	48,659	5,728	20,302	4,447	16,018	109
合繊綿	960,006	351,866	217,968	275,467	51,943	76,031	36,890	58,831	92
(ポリエステル)	264,143	288,309	177,670	204,651	25,776	31,284	19,727	27,474	100
(アクリル)	695,438	62,389	40,036	69,852	22,934	38,635	14,342	24,468	81
糸合計	354,059	740,004	263,982	614,047	88,768	390,552	73,836	304,901	108
人絹糸	2,397	6,982	3,648	8,350	1,562	8,265	1,880	7,711	161
スフ糸	25,415	57,388	19,366	44,291	417	1,305	196	1,008	77
合繊長繊維糸	213,811	342,769	152,854	285,442	62,779	222,486	54,678	201,836	115
(ナイロン)	22,610	67,319	16,019	58,834	30,711	108,427	23,948	98,133	102
(ポリエステル)	160,276	231,759	117,058	189,579	25,546	60,532	24,769	59,869	130
合繊短繊維糸	62,140	143,385	44,206	124,245	7,976	48,209	5,609	27,486	88
綿糸	44,793	132,611	39,669	109,962	12,009	64,467	9,658	45,781	101
織物合計	159,955	870,389	115,156	668,611	107,216	641,839	85,645	485,837	106
絹織物	200	13,937	186	10,900	98	5,653	73	3,416	109
人絹織物	1,101	6,650	315	1,812	1,176	10,751	1,117	8,956	128
スフ織物	11,873	65,393	9,762	56,814	19,081	53,972	17,618	45,151	119
合繊長繊維織物	35,817	168,708	25,316	140,665	30,362	173,332	19,029	107,979	81
(ナイロン)	2,246	12,355	2,178	16,810	4,897	37,956	2,786	23,129	70
(ポリエステル)	21,104	97,611	12,030	66,502	17,045	94,910	10,290	58,682	78
合繊短繊維織物	51,663	269,874	36,325	203,680	16,301	84,309	12,395	65,649	100
綿織物	58,793	343,060	42,653	252,769	37,090	260,596	33,258	214,666	124
毛織物	101	1,309	98	743	1,529	37,437	1,202	30,796	93
不織布	27,977	73,498	24,366	66,381	13,704	55,221	12,291	50,300	118
タイヤコード織物	18,639	62,368	14,879	60,780	18,404	55,810	15,966	58,323	117
コーテッド織物	12,669	41,900	10,709	34,153	14,432	41,304	24,489	33,529	212
ニット生地	27,787	143,830	22,759	112,093	39,627	309,153	35,131	261,487	114
ニット製衣料		1,813,051		1,413,679		88,001		46,662	70
布帛製衣料		1,590,724		1,179,913		84,809		79,725	127
その他		626,027		500,585		313,114		275,086	118

(注) 2004年の合繊綿・合繊綿アクリルの数量は疑義があるが、タイ統計原本どおり。

出所：タイ通関統計

糸類の輸出は、数量で3%減の26万3,982トン、金額で11%増の6億1,405万ドルと数量減の金額増となった。

太宗の合繊長繊維糸は数量で7%減の15万2,854トン、金額で13%増の2億8,544万ドルで、この内訳は、ナイロン糸が数量で10%減の1万6,019トン、金額で16%増の5,883万ドル、ポリエステル糸が数量で4%減の11万7,058トン、金額で13%増の1億8,958万ドルと、何れも数量減の金額増となった。

その他糸類では、綿糸が数量で17%増の3万9,669トン、金額で9%増の1億996万ドルと好調に推移、また合繊短繊維糸は数量で8%減の4万4,206トン、金額で14%増の1億2,425万ドルと数量減の金額増となっている。

市場別（州別）では、東アジア（シェア33%）が10%増、北米（同33%）が4%増、ヨーロッパ（同20%）が1%増となっており、この3大市場で全体の87%を占めている。

国別では、米国、EU、日本、中国、香港、アラブ首長国が6大輸出市場で全繊維品輸出の66%を占めている。このうち、最大市場の米国が4%増の15億9,062万ドル、EUが1%増の9億7,92万ドル、日本が2%減の3億2,043万ドル、中国が10%増の2億1,471万ドル、香港が10%減の1億3,317万ドル、アラブ首長国が5%増の1億2,750万ドルとなっている。

その他主要輸出国は、インドネシア（1億1,638万ドル：19%増）、インド（8,681万ドル：17%増）、マレーシア（8,646万ドル：18%増）、ベトナム（8,404万ドル：40%増）、フィリピン（8,220万ドル：25%増）と、何れも好調な推移となっている。

< 輸入は9%増の22億3,648万ドルと高水準で推移 >

輸入も輸出の増勢を背景に、9%増の22億3,648万ドルと比較的高水準で推移している。

綿類の輸入は、天然繊維原料を主体に、数量で38%増の48万4,032トン、金額で14%増の6億4,063万ドルとなっている。

糸類の輸入は、合繊長繊維糸中心に、数量で8%増の7万3,836トン、金額で1%減の3億490万ドルとなっている。

織物類の輸入は、主要品目では、合繊長繊維織物は減少しているが、綿織物が大幅に増加し、全体として数量で6%増の8万5,645トン、金額で3%増の4億8,584万ドルと、数量、金額共に増勢推移となった。

また、ニット生地も、数量で14%増の3万5,131トン、金額で11%増の2億6,149万ドルと2桁の増加推移となっている。

一方、衣料品の輸入は、ニット製衣料品が30%減の4,666万ドルと大幅に減少しているのに対し、布帛製衣料品は27%増の7,973万ドルと大幅に伸び、対照的な推移となっている。

市場別（州別）では、東アジアが64%と圧倒的なシェアを占め6%増、北米が12%を占め31%増、欧州が10%を占め15%増となっている。

国別では、中国、米国、日本、台湾、EU、香港が6大輸入先で全繊維品輸入の70%を占め

ている。最大輸入先の中国は13%増の5億880万ドル、続く米国が綿花の輸入急増で33%増の2億5,929万ドル、日本が11%増の2億2,816万ドル、台湾が10%減の2億2,757万ドル、EUが15%増の2億154万ドル、香港が1%減の1億2,927万ドルの順で台湾、香港を除いて軒並み増加推移となっている。

その他主要輸入先は、オーストラリア(1億1,859万ドル：12%減)、韓国(9,606万ドル：18%減)、インドネシア(7,688万ドル：11%増)等となっている。

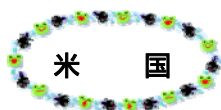


2006年対米繊維規制品目と規制枠

WTO(世界貿易機関)繊維協定に基づき、2005年1月1日より、WTO加盟国に対する規制は撤廃されたが、ベトナムは現時点ではWTO未加盟国であることから、米国は2国間協定により、2006年も規制を継続実施することとなった。(EUについては、繊維2国間協定での合意により枠は現在設定されていない。)

2006年のベトナムの対米規制品目と規制枠は次のとおり。

Ca.No	単位	品 目	規制枠	前年伸び率
200	kg	小売用糸、縫糸	367,513	13.4%
301	kg	綿糸(コーム)	833,029	13.4%
332	dpr	綿製靴下	1,225,043	13.4%
333	doz	綿製男子スーツタイプコート	44,101	13.4%
334/335	doz	綿製男子その他コート、女子コート	790,375	13.4%
338/339	doz	綿製ニットシャツ、ブラウス	16,402,811	15.6%
340/640	doz	綿・化合繊維製男子布帛シャツ	2,433,201	13.4%
341/641	doz	綿・化合繊維製女子シャツ、ブラウス	932,969	13.4%
342/642	doz	綿・化合繊維製スカート	661,770	13.4%
345	doz	綿製セーター	348,969	13.4%
347/348	doz	綿製ズボン	8,325,564	15.6%
351/651	doz	綿・化合繊維製ナイトウエア・パジャマ	584,933	13.4%
352/652	doz	綿・化合繊維製下着	2,228,480	13.4%
359c/659c	kg	綿・化合繊維製オーバーオール	397,928	13.4%
359s/659s	kg	綿・化合繊維製水着	643,148	13.4%
434	doz	毛製男子その他コート	17,191	8.4%
435	doz	毛製女子コート	42,416	8.4%
440	doz	毛製布帛製シャツ・ブラウス	2,653	8.4%
447	doz	毛製男子ズボン	55,183	8.4%
448	doz	毛製女子ズボン	33,959	8.4%
620	sm	その他合繊維長繊維織物	7,796,174	13.4%
632	dpr	化合繊維製靴下類	612,522	13.4%
638/639	doz	化合繊維製ニットシャツ、ブラウス	1,462,269	13.4%
645/646	doz	化合繊維製セーター	236,437	13.4%
647/648	doz	化合繊維製ズボン	2,377,827	13.4%



2005年10月の繊維品輸入・中国中心に引続き大幅に増加

中国からの輸入 41%増

2005年10月の米繊維品輸入は、中国を始めとするアジア諸国からの輸入を中心に、引続き大幅に増加している。

<10月の輸入>

米商務省（DOC）の発表によると、2005年10月の米繊維品輸入は44億9,200万SME（平方メートル換算）で前年同月比9.3%増となった。この結果、繊維品輸入は3カ月連続の9%以上の大幅な伸び率を記録した。10月の輸入のうち、ノン・アパレル（糸、織物、その他繊維製品）の輸入は13.8%増となり、2005年では2月の17.3%増に続く2番目に大きな伸び率となり、またアパレルは6.3%増で15カ月連続の増加となった。

地域別輸入では、中国が41.1%増と著しい増加を続け、またパキスタンが17.3%増、インドが23.8%増となった。このように、アジア諸国からの輸入が大幅に伸び、全体の増加に大きく貢献している。一方、カナダからの輸入は10.8%減となり、メキシコも3.2%減となった。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,704	0.7	16,104	0.4	32,810	0.2
2002年	21,028	25.9	17,256	7.2	38,285	16.7
2003年	23,362	11.1	18,864	9.3	42,226	10.3
2004年	26,976	15.5	19,652	4.2	46,628	10.4
2005年	24,175	6.7	18,647	11.1	42,822	8.6
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	2.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	1.4	2,065	19.5	4,552	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4
9月	2,489	12.0	2,127	8.9	4,617	9.6
10月	2,576	13.8	1,917	6.3	4,492	9.3

注：前年比は増減、は減少（以下の表同じ）。

出所：米商務省（DOC）

<1～10月の輸入>

2005年1～10月の米繊維品輸入は428億2,200万SMEで前年同期比8.6%増となった。このうち、ノン・アパレルが6.7%増、アパレルが11.1%増となっており、米繊維品輸入はノン・アパレル、アパレルとも順調に

伸びている。

2005年1～10月の主要地域別輸入では、アジア諸国、とりわけ中国、パキスタン、インド、バングラデシュからの輸入が活発であり、他方米近隣諸国の北米自由貿易協定（NAFTA）パートナー及びカリブ海諸国（CBI）からの輸入は停滞している。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年 1～10月	前年 同期比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,227	46,936	42,822	8.6
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,373	5,828	6.6
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,101	3,281	5.4
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,272	2,547	8.5
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	4,168	3,463	1.3
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,209	1,042	5.3
エルサルバドル	757	768	817	895	895	742	1.5
ドミニカ共和国	859	773	743	758	772	610	3.4
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,633	16,128	17,427	28.7
中国	2,218	2,211	4,963	8,288	11,662	14,248	45.6
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	1,660	13.5
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,302	916	17.6
香港	1,123	1,092	962	892	862	603	17.1
アセアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,140	4,280	1.6
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,114	878	6.0
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,275	1,132	5.0
フィリピン	929	916	817	794	711	538	11.1
ベトナム	35	33	358	827	905	793	2.9
カンボジア	265	389	474	561	673	606	7.1
EU（15カ国）	1,863	1,868	2,055	2,059	2,063	1,603	6.0
イタリー	562	521	518	533	462	329	13.9
ドイツ	359	457	551	484	479	375	5.9
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,064	10,221	0.7
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,970	2,731	8.6
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,915	1,969	20.6
バングラデシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,109	1,118	18.9
トルコ	867	871	1,068	1,026	982	729	12.9

2005年1～10月の主要地域からの輸入状況は、以下の通り。

アジア地域では、いわゆるビッグ4からの輸入が28.7%の大幅増となり、特に中国は45.6%増と著しく増加し、そのシェアは前年同期の25%から33%に拡大し、供給国第1位の地位を堅持している。

一方、他のビッグ4構成国の韓国、台湾、香港は、中国の大躍進の煽りを受けて、いずれも二桁の大幅な減少となっている。

アセアンからの輸入では、新興市場のベトナムとカンボジアは堅調に伸びているが、伝統

市場のうち、タイとフィリピンが大幅な減少となり、アセアン全体としては1.6%の減少となった。

米近隣地域からの輸入では、NAFTA パートナーのメキシコとカナダからの輸入が不調で、両国合わせて6.6%減となった。このため、メキシコは中国に次いで供給国第2位の地位を維持しているものの、カナダは本年7月以降、パキスタンに追い抜かれて第3位から第4位に転落している。

また、CBIからの輸入は1.3%増と僅かな伸びにとどまっている。

EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツからの織物の不振が影響して、6.0%減となった。

上記の主要地域に含まれない「その他地域」では、パキスタンが8.6%増と順調に推移し、上述の通り、供給国第3位の地位を保持している。

また、インドが20.6%増、バングラデシュが18.9%増といずれも大幅な増加となっており、その他地域においてもアジア勢からの輸入が活発である。

2005年11月の米大手小売店販売、引続き堅調

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チエーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店の2005年11月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）3.5%増と、引続き堅調に推移している。この伸び率は、前月（4.4%）を下回ったものの、前年同月（1.7%）を大きく上回っている。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年 月	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
1	8.2	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6
2	7.6	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9
3	9.9	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1
4	4.2	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2
5	6.8	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9
6	7.4	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2
7	6.9	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6
8	6.7	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6
9	6.7	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0
10	5.7	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4
11	4.1	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5
12	6.7	0.7	2.2	1.0	3.9	2.7	
年間平均	6.7	4.0	2.6	3.1	2.9	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

2005年11月の小売

販売について、アナリストは、「セーター、コート等の秋・冬物の需要は、前半は季節外れの温かい天候により停滞したが、第4週（感謝祭=24日(木)とブラック・フライデー=25日(金)が含まれる週）から動き始め、また多くの小売店が販売促進に努めたことから、11月全体としてはまずまずの売上高となった」とコメントしている。

ストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

大手百貨店の2005年11月の販売は、斑模様であった。

高級百貨店では、ニーマン・マーカスが4.0%増、ノードストロムが2.8%増と堅調に推移したが、サクスは0.1%の微増にとどまった。

このうち、サクスは、全体では微増となったものの、商品では女性及び男性用のコンテンツポラリー・スポーツウエア、女性用“ゴールド・レインジ”アパレル、アウトウエア、インティメート・アパレル、ジュニア用アパレル、シューズ、ソフト・ホーム用品がベスト・セール品目であった。

また、中級百貨店では、J.C.ペニーが3.6%増と堅調であったが、ディラードは1.0%の僅かな増加にとどまり、コールズは0.1%の微減となり、フェデレーテッドは3.4%の減少となった。

このうち、J.C.ペニーは「11月の販売増は、感謝祭後のブラック・フライデーと週末の記録的な販売増によるものであるが、商品では特に女性用アクセサリー、ファミリー・シューズ、ホーム用品、また地域では南東部と西部が好調であった」と説明している。

大手衣料品専門店チェーンの2005年11月の販売は、一部を除き、全般的に順調に推移した。若者向け衣料品専門店チェーンでは、アバクロンビー & フィッチの23.0%増を筆頭に、エアロポス

米主要小売店の2005年11月の販売状況

単位：100万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
		前年同月比
<百 貨 店>		
ディラード	561	1.0
フェデレーテッド	2,738	-3.4
J.C.ペニー	1,565	3.6
コールズ	1,493	-0.1
ニーマン・マーカス	328	4.0
ノードストロム	706	2.8
サクス	544	0.1
<衣料品専門店チェーン>		
アバクロンビー & フィッチ	251	23.0
アメリカン・イーグル	202	1.7
アン・テラー・ストア	182	12.9
エアロポステール	134	7.3
チャーミング・ショップズ	233	9.0
ギャップ	1,400	-4.0
リミテッド・ブランド	817	5.0
メンズ・ウエアハウス	117	5.8
パシフィック・サンウエア	107	3.0
タルボット	131	3.3
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	4,583	2.6
ウォル・マート	25,768	4.3

テールが 7.3% 増、リミテッド・ブランドが 5.0% 増、パシフィック・サンウエアが 3.0% 増、アメリカン・イーグルが 1.7% 増と、いずれも売上げを伸ばした。

このうち、エアロポステールは、「11月の好調な販売は、第4週の大幅な増加(30%増)に支えられており、商品としては男性及び女性用のデニム商品、女性用のセーターと装身具類が好調であった」と語っている。

他方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは 4.0% 減となった。傘下のバナナ・リパブリックとギャップ・ストアが共に 5% 減、オールド・ネイビーが 2% 減、ギャップ・インターナショナルが横ばいとなった。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンでは、アン・テラー・ストアが 12.9% の大幅増となり、タルボットも 3.3% 増と堅調であった。

その他、プラスサイズの婦人用衣料品専門店のチャーミング・ショppsが 9.0% 増、メンズ・ウエア専門店のメンズ・ウエアハウスが 5.8% 増と、順調に推移した。

大手ディスカウント・ストアの 2005 年 11 月の販売は、ターゲットが 2.6% 増、ウォル・マートが 4.3% 増と、ともに堅調であった。

このうち、ウォル・マート首脳は、「11月の販売増は、低価格ラップトップ・コンピューターが爆発的に売れたこと及びテレビ・コマーシャル等の大々的な宣伝攻勢が奏功したことによる」と述べている。なお、ウォル・マートの伸び率がターゲットを上回ったのは、約 20 カ月ぶりのことである。



2005 年 1～9 月の繊維品域外貿易・輸出入共に増勢推移

EU 統計局 = EUROSTAT によれば、2005 年 1 - 9 月の EU の繊維品輸出はドルベースで、前年比 4% 増の 341 億 7,569 万ドル、輸入は 7% 増の 687 億 5,661 万ドルと、輸出入共に増勢で推移している。

< 輸出、4% 増 >

輸出を地域別にみると、欧州が 45% のシェアを占め 6% 増、続いて東アジア (シェア 18%) が 6% 増、北米 (同 15%) が 2% 増、アフリカ (同 12%) が 3% 減となっており、この 4 地域で全体の 90% を占めている。

国別のベスト 10 は、米国 (44 億 9,460 万ドル: 2% 増)、スイス (35 億 5,062 万ドル: 7% 増)、ルーマニア (26 億 5,023 万ドル: 2% 減)、ロシア (22 億 2,289 万ドル: 25% 増)、日本 (18 億 4,736 万ドル: 1% 増)、トルコ (17 億 6,034 万ドル: 5% 減)、チュニジア (15 億 7,406 万ドル: 4% 減)、香港 (14 億 6,060 万ドル: 7% 増)、モロッコ (13 億 9,353 万ドル: 2% 減)、ノルウェー (10 億 3,948 万ドル) の順となっている。

品目別輸出では、原料関係は、綿類が数量で2%減の45万2,914トン、金額で10%増の10億4,978万ドルと数量減の金額増、糸類は数量で4%減の31万9,428トン、金額で4%減の21億9,656万ドルと数量、金額共に減少推移となった。

また、織物類の輸出も数量で3%減の20億7,998万平方メートル(SM)、金額で2%減の71億3,144万ドルと数量、金額共に微減推移となった。織物類の内訳は、主力の綿織物が数量で1%減の7億7,947万SM、金額で横ばいの28億5,667万ドル、合繊長繊維織物が数量で3%増の6億1,425万SM、金額で1%減の10億3,234万ドル、合繊短繊維織物が数量で13%減の3億1,603万SM、金額で10%減の9億3,976万ドル、毛織物が数量で7%減の1億4,382万SM、金額で横ばいの13億3,490万ドルで、何れも伸び悩み苦戦している。

一方、EUの最大輸出品目である衣料品は、ニット製衣料品が6%増の48億7,914万ドル、布帛製衣料品が10%増の94億1,470万ドルと、何れも全体の伸びを上回る高い伸びを記録した。

< 輸入、7%増 >

輸入については、地域別では、東アジアからの輸入(シェア58%)が14%増、続いてヨーロッパ(同27%)が1%増、アフリカ(同9%)が6%減となっており、この3地域で全輸入の95%を占めている。

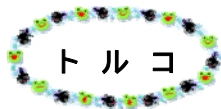
国別のベスト10は、中国(206億793万ドル:48%増)、トルコ(103億5,750万ドル:6%増)、インド(50億4,918万ドル:20%増)、ルーマニア(37億7,789万ドル:4%減)、バングラデシュ(34億4,320万ドル:6%減)、チュニジア(25億8,006万ドル:3%減)、モロッコ(22億2,484万ドル:7%減)、パキスタン(19億2,158万ドル:10%減)、インドネシア(14億550万ドル:15%減)、スイス(13億7,710万ドル:6%減)の順となっている。

2005年から枠が撤廃され、中国、インドがこの恩恵を受けて輸出を大きく伸ばしており、逆にその他諸国の多くはこの2国の攻勢に押されて減少傾向となっている。

品目別輸入では、原料は、綿関係が数量で5%減の114万8,056トン、金額で6%減の24億3,684万ドルと数量、金額共に減少推移、糸関係は数量で4%減の86万2,769トン、金額で1%増の29億2,470万ドルと数量微減の金額増、織物関係は数量で11%増の47億9,912万SM、金額で4%減の38億4,448万ドルと数量増の金額減となっている。

織物の内訳では、綿織物が数量で12%増の17億8,867万SM、金額で1%減の15億229万ドル、合繊長繊維織物が数量で7%減の13億2,177万ドル、金額で14%減の9億8,887万ドル、合繊短繊維織物が数量で6%減の8億916万ドル、金額で横ばいの6億2,019万ドルとなっている。

また、全体の輸入の73%を占める衣料品は、ニット製衣料品が8%増の223億3,561万ドル、布帛製衣料品も8%増の279億5,899万ドルと共に大きく伸び、年々増大するEUの繊維貿易赤字最大の要因となっている。



2006年対中繊維規制品目及び規制数量

トルコは、中国からの繊維品輸入に対し、2005年より、42カテゴリー品目に対し、繊維セーフガード規制を実施しているが、2006年についても新たに2品目を追加、44カテゴリー品目について規制を継続実施することを決定した。

2006年のトルコの対中繊維規制品目及び規制数量は次のとおり。

	Ca.No.	品名	単位	規制数量	備考
1	2	綿織物	k g	8,950,000	
2	4	ニット製下着(シャツ、T-シャツ等:除く毛製)	枚	1,780,000	
3	5	ニット製ジャージ、プルオーバー等)	枚	560,000	
4	6	布帛製パンツ	枚	600,000	
5	7	女子用シャツ、ブラウス	枚	250,000	
6	8	男子用布帛製シャツ	枚	110,000	
7	9	綿製タオル、トイレットリネン等	k g	5,000	
8	10	ニット製手袋	足	22,680,000	
9	12	靴下	足	590,000	
10	13	ニット製ショーツ	枚	505,000	
11	14	男子用布帛コート類	枚	200,000	
12	15	女子用布帛コート類	枚	375,000	
13	16	男子用布帛スーツ、アンサンブル	枚	61,000	
14	17	男子用布帛ジャケット、ブレザー	枚	20,000	
15	18	布帛下着、パジャマ類	k g	280,000	
16	20	布帛ベッドシート、枕カバー	k g	46,000	
17	21	布帛アノラック、パーカー等	枚	3,611,000	
18	24	男子用ニット製パジャマ	枚	151,000	
19	26	女性用ドレス	枚	78,000	
20	27	スカート	枚	410,000	
21	28	ニット製ズボン、半ズボン	枚	190,000	
22	29	女子用布帛製スーツ、アンサンブル	枚	20,000	
23	31	ブラジャー	枚	853,000	
24	36	化繊長繊維織物	k g	6,067,000	
25	39	布帛製テーブル布、バスタオル	k g	410,000	
26	40	布帛製カーテン地	k g	248,000	新規枠
27	50	毛織物	k g	2,010,000	
28	67	ニット製アクセサリ等	k g	542,000	新規枠
29	68	幼児服	k g	76,000	
30	72	水着	枚	600,000	
31	73	ニット製トラックスーツ	枚	228,000	
32	74	女子用ニット製スーツ、アンサンブル	枚	32,000	
33	75	男子用ニット製スーツ、アンサンブル	枚	5,000	
34	76	布帛製作業服	k g	18,000	
35	78	その他布帛製衣類	k g	120,000	
36	83	その他ニット製衣類	k g	129,000	
37	84	布帛製マフラー、スカーフ、ショール	枚	4,566,000	

	Ca.No.	品名	単位	規制数量	備考
38	85	布帛製ネクタイ	枚	1,708,000	
39	96	不織布	k g	5,183,000	
40	100	塗装布(コーティングしたもの)	k g	10,000,000	
41	117	亜麻・ラミー織物	k g	100,000	
42	156	女子用絹ニット製シャツ、絹製セーター等	k g	9,000	
43	157	絹製衣類	k g	35,000	
44	159	女子用絹布帛製シャツ、ワンピース、マフラー、ネクタイ等	k g	35,000	

組合関係の会議と催事

【2005年12月】

輸出入

・「綿製品懇談会」が開催。

輸出

・ブラジル繊維市場調査。
・近畿経済産業局・国際事業課と懇談。

輸入

・バングラデシュ首相府官房長と小藪理事長が懇談。
・各委員会で2006年品目別輸入見通しを策定。

2日(金)

輸入(大阪) 第80回中国アジア専門委員会(細田委員長)が開催され 訪中ミッションの報告
情報交換が行われた。

4日(金)

輸出(大阪) ブラジル繊維市場調査団員(千速団長)がサンパウロ、リオジャネイロでの市場
調査(11月28日~12月3日)を終え、帰国。

5日(月)

輸出(大阪) 繊維団体新年名刺交換会打合せ会を輸出組合会議室で開催し、平成18年の新年
名刺交換会の参加者名簿の作成などについて検討した。

輸入(東京) バングラデシュ・Mr. Md Didadul Ahsan 首相府官房長他が来所し事務局と懇談
した。

6日(火)

輸入(東京) バングラデシュ・Mr. Md Didadul Ahsan 首相府官房長他は丸紅(株)に小藪理事長
を訪問し懇談を行った。

大迫貿易制度専門委員長並びに諏訪環境リサイクル対策G長はザ・ピープル
吉田理事長と繊維製品3R推進会議出席のための事前打合せを行った。

経産省会議室にて「第12回繊維製品3R推進会議」が開催され、当組合より
大迫貿易制度専門委員長と諏訪環境リサイクル対策G長が出席した。

第103回欧州北米専門委員会(細見委員長)が開催され、委員交替 最近の
輸入動向 2006年毛織物等輸入見通し策定 情報交換が行われた。

新年賀詞交歓会の準備打合せを行った。

8日(木)

輸入(東京) 「第23回綿委員会」(大塚委員長)が開催され 綿製品懇談会用輸入見通し策定
企画委員会用輸入見通し策定 中国海上運賃の付帯費用について審議、意見交
換が行われた。

9日(金)

輸入(熊本) 「第66回アパレル委員会」(尾川委員長)が開催され 2006年衣類輸入見通し策定

2006 年度事業計画について審議が行われた。

13 日（火）

輸入（東京）「第 62 回貿易制度専門委員会」（大迫委員長）が開催され、2006 年度為替見通し
繊維関係のラベルについて 各対策 G 業務報告について審議、報告が行われた。
尚、2006 年の為替レートは 1 ドル 113.71 円と策定された。

15 日（木）

輸出（大阪）近畿経済産業局通商部国際事業課・小村課長、西山課長補佐との懇談会を輸出組合
会議室で開催し、海外ビジネスの応援事業等に関して意見交換を行った。

輸出（東京）日本繊維産業連盟の常任委員会が霞が関東京會館で開催され、小藪理事長が出席
された。

16 日（金）

輸入（神戸）「貿易制度専門委員会第 10 回関税評価対策 G」（神谷議長）が開催され、神戸税関
担当官との懇談会が行われ、HDS チャージ問題及び暫 8 の運用等について意見
交換が行われた。

輸出入（名古屋）新年賀詞交歓会の準備打合せを行った。

20 日（火）

輸入（東京）台湾紡拓会・許文正副秘書長並びに台湾貿易センター・李富山所長他が来所され
事務局と懇談を行った。

21 日（水）

輸出入（東京）紡績協会会議室で「綿製品懇談会」が開催された。

1 月のスケジュール（1 月 6 日現在）

4 日（水）	輸出（大阪）	「繊維団体新年名刺交換会」
5 日（木）	輸出入（大阪）	「新年賀詞交歓会」（関西地区）
6 日（金）	輸出入（東京）	「新年賀詞交歓会」（関東地区）
10 日（火）	輸出入（名古屋）	「新年賀詞交歓会」（名古屋地区）
16 日（月）	輸出入（東京）	大連国際服装有限公司代表との懇談会
17 日（火）	輸出入（東京）	日本繊維産業連盟の常任委員会・役員総会・パーティ
20 日（金）	輸入（大阪）	「第 13 回絹委員会」 「第 14 回化合繊委員会」
23 日（月）	輸入（大阪）	日本黄麻製品輸入協議会「第 118 回運営委員会」
25 日（水）	輸入（東京）	「アパレル委員会（在京）正副委員長会」
27 日（金）	輸入（大阪）	「第 88 回寝具インテリア委員会」

2006年新年賀詞交歓会を開催

日本繊維輸出組合と日本繊維輸入組合の共催による2006年新年賀詞交歓会が大阪、東京、名古屋でそれぞれ開催された。

各地での開催概要及び出席者などは以下の通り。

【関西地区】

日時： 2006年1月5日（木）午後5時～午後6時30分
場所： 大阪・輸出繊維会館 BMホール
出席者： 約200名
概要： 年頭挨拶 足立副理事長
来賓挨拶 近畿経済産業局 通商部 大岡部長
乾杯 八木副理事長
司会 吉澤企画委員長

【関東地区】

日時： 2006年1月6日（金）午後5時～午後6時30分
場所： 東京・飯野ビル「キャッスル」
出席者： 約140名
概要： 年頭挨拶 小藪理事長
来賓挨拶 経済産業省 製造産業局 平工次長
乾杯 北村副理事長
司会 吉澤企画委員長

【名古屋地区】

日時： 2006年1月10日（火）午後5時30分～午後7時
場所： 名古屋観光ホテル「桂の間」
出席者： 約80名
概要： 年頭挨拶 豊島理事
来賓挨拶 中部経済産業局 地域経済部 内山次長
名古屋税関 業務部 山本部長
乾杯 丸紅（株）名古屋支社 小槻繊維部長
司会 岸企画委員

(新年賀詞交歓会 / 関東地区会場風景)



小藪理事長 年頭挨拶

経済産業省 製造産業局
平工次長 来賓挨拶



北村副理事長 乾杯

輸出

3 運賃同盟、繊維品のスペシャル・レートの適用期間を延長(輸出組合)

輸出組合が西アフリカ運賃同盟、セイロン運賃同盟、フィリピン運賃同盟の3運賃同盟宛に繊維品のスペシャル・レートの適用期間延長を要望していたところ、この度、各同盟より2006年1月1日以降6ヶ月間、従来と同じスペシャル・レートを適用する旨、下記の通り回答があった。

1. 西アフリカ運賃同盟

(1) Contract Rate

(単位：US\$)

Commodity	Rate Basis	T/R Rate	TSD Rate		
		Freetown Dakar Conakry Banjul	Cotonou Libreville P. Gentil Pointe Noire Matadi	Monrovia Abidjan Tema Lome Douala	Lagos/Apapa Port Harcourt
Textiles, Piece Goods & Manufactures	M	a) 216.35 b) 226.90	204.20	151.45	142.90
Textiles, Fibers Yarn & Tow	M	c) 196.85	177.15	137.80	106.65

(2) Non-Contract Rate

(単位：US\$)

Commodity	Rate Basis	T/R Rate	TSD Rate		
		Freetown Dakar Conakry Banjul	Cotonou Libreville P. Gentil Pointe Noire Matadi	Monrovia Abidjan Tema Lome Douala	Lagos/Apapa Port Harcourt
Textiles, Piece Goods & Manufactures	M	a) 239.05 b) 250.70	225.65	167.35	157.90
Textiles, Fibers Yarn & Tow	M	c) 217.50	195.75	152.25	117.85

Note : a) Cotton Piece Goods & Manufactures only

b) Synthetic Piece Goods & Manufactures only

c) Synthetic Yarn only

(注) T/R Rate = Temporary Reduced Rate

TSD Rate = Temporary Special Discount Rate

2. セイロン運賃同盟

Item	Rate
Staple Fiber of Rayon, Acetate and Synthetic	US\$ 59.65 per M3
Textile & Manufactured Goods of Synthetic	US\$ 70.15 per M3
Yarn of Rayon, Acetate and Synthetic	US\$ 63.15 per M3

3. フィリピン運賃同盟

Item No.	Commodity	Rate
V - 1	Cotton Textile & Yarn & Manufactures & others	\$ 104.50 per KT/M3
V - 1	Chemical Textile & Manufactures	\$ 104.50 per KT/M3
V - 1	Flax Yarn & Manufacture & others	\$ 104.50 per KT/M3
V - 2	Silk, Woolen Textile & Yarn Manufacture & others	\$ 138.75 per KT/M3

適用期間：いずれも 2006 年 1 月 1 日～2006 年 6 月 30 日

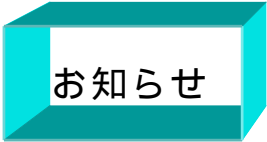
繊維団体新年名刺交換会の開催（輸出組合）

関西の繊維業界団体（7 団体）による、新年名刺交換会が 2006 年 1 月 4 日、帝国ホテル大阪にて以下の通り開催され、繊維輸出組合が主当番を務め、主催者を代表して小藪理事長が年頭の挨拶を行われた。参加者は約 430 名であった。

1. 日 時 平成 18 年 1 月 4 日(水) 午前 11 時 30 分
2. 場 所 帝国ホテル大阪 孔雀西の間（大阪市北区天満橋）
3. 概 要
年頭挨拶 日本繊維輸出組合 理事長 小藪 博
乾 杯 日本羊毛紡績会 会 長 中井 宏明
進 行 日本繊維輸出組合 専務理事 内海 博基

4. 主催団体

日 本 紡 績 協 会 日 本 綿 化 織 糸 商 業 組 合
日 本 化 学 織 維 協 会 化 学 織 維 振 興 会
日 本 綿 花 協 会 日 本 羊 毛 紡 績 会
日 本 織 維 輸 出 組 合



繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 18 年 2 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、輸出組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 17 年 8 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 17 年 2 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 18 年 2 月 20 日(月)
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)
 保険期間延長依頼書 2 通
 (用紙は事務局で準備しています。)
 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先:総務部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2005 年 8 月度受付保険申込書番号

記号	受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5		105079 ~ 105696	102257 ~ 102503	100243 ~ 100266
		506329 ~ 507340		

前受け以外に係る 2005 年 2 月度受付保険申込書番号

記号	受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5		100871 ~ 01562	100370 ~ 100631	100062 ~ 100083
		500822 ~ 501749		

- 「テキスタイル・インディア 2006」開催案内 -

インド貿易振興局

テキスタイル・インディア 2006

会期： 2006年3月1日(水)～3月4日(土) 9:30～18:30
会場： インド ニューデリー プラガティ・マイダン展示場 ホール6&7
主催： インド貿易振興局
出展社数： 約300社
展示製品： 糸、ファブリック、繊維、縫い糸、インテリア用品及び装飾品、服飾品、
軽繊維機械、CAD/CAM システム、出版物、サポートサービス、
その他

インド貿易振興局主催の「テキスタイル・インディア」が2006年3月1日(水)～3月4日(土)の4日間、インド。ニューデリーの展示会場プラガティ・マイダンにて開催されます。同展示会は糸素材、ファブリック、インテリア用品、服飾雑貨、アクセサリー、サポートサービス等のアパレル&インテリア繊維製品に関する全てが幅広く展示される、アジア有数の繊維関係展示会です。

2005年の同展示会では、海外からの出展8社を含む全318社が16,000平米の展示面積に出展し、業界関係者のみに来場を限定した来場者総数は12,000名に達し、うちインドを含め101カ国から5,273名、1,428社の海外企業代理店の方々が来場されました。

同時期・同会議では、昨年に引続き「インドハンディクラフト&ギフト展」「ジュート・インディア」「カーペット・インディア・エキスポ」の3展示会も併催され、様々なバイヤーの皆様のご要望を一度に満たすことができます。

ご来展にご興味のある輸入組合員企業は下記の弊局の東京事務所までご連絡下さい。

(連絡先) インド貿易振興局 東京事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-21 33森ビル8階

TEL:03-3436-5060 FAX:03-3431-5659

お知らせ

- 2006年2月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

2006年2月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題についてご相談の向きはご連絡下さいませようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2006年2月8日(水)及び2月22日(水)
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)

5. 連絡先

Tel 番号 03(3270)0791

Fax 番号 03(3243)1088

E Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件事務局担当：国信までご連絡下さい。

以上